

公益財団法人
北海道青少年育成協会

北海道の次代を担う
青少年の健全な育成
に寄与することを
目的としています。

育む

はぐくむ

No.
34

令和7年(2025)
3月発行



NPO法人E-LINKが、毎週月曜に地域のお寺（北海寺）で開催している
寺子屋プロジェクト「おちゃのま」に集まったこども達と“ほーほーくん”

Contents

●開催報告

- 令和6年度 青少年育成運動活性化研究協議会 2・3
- 令和6年度 青少年育成地域懇話会
（標茶町・知内町） 4
- 令和6年度 青少年育成関係団体懇談会
当協会にお寄せいただいたご意見などについて ... 5

●「道民家庭の日」ほーっとニュース 6

●青少年の社会参加

- 北海道青年活動元気づくりプロジェクト事業 ... 7

●北海道こども計画、表彰報告 8

●令和7年度 事業計画・予算の概要 9

●その他

- 講師派遣事業／北海道青少年基金 交付金
賛助会員の募集／LINEのご案内 10

令和6年度 青少年育成運動活性化研究協議会

令和6年11月8日（金） かでる2・7（札幌市）

まずは子どもを幸福にしよう。「教え」から「学び」へ。



道内で青少年育成運動に取り組んでいる皆さんと、活動の現状や課題などについて共通理解を深め、地域活動の活性化を図るため研究協議会を開催しています。

今年は、基調講演と分科会の1つにZoomを使い、地方からも視聴できるハイブリッド方式で実施しました。

基調講演

演題

子ども「やりたい、知りたい」を大切に —地域とともに歩む学校—

学校法人 学びのさと自由が丘学園 理事長 **細田 孝哉 氏**



不登校児童が34万人を超え、さらに急増しています。いろいろ対症療法的な施策が執られています。が、根本の部分での改革がされていないのではと考えています。

「こどもを教え込まなければいけない」という発想から離れられていないからではないでしょうか。競争が求められる中で、こどもは自分の力を発揮できない息苦しさから、学校からこぼれ落ちていっているように感じます。

▼まおい学びのさと小学校の理念

「こどもは放っておけば何もしない、だからテストとかで尻をたたいて強制的に勉強させる。」というのがこれまでの発想だったと思います。

我々は、強制や競争、成績で格付けした管理による「教え」ではなく、こどもの「おもしろい」「知りたい」「やってみよう」そんな人間が元々持っていた思いを大切にしたいと考えています。

こどもがそれぞれ協力し合い、個性を大切に、他人にも寛容でいられること、自分の頭で考え、自由で自立した学びによって成長していく、それが私たちの基本的な考え方です。

「1オンスの経験は、1トンの理論にまさる」は、100年ほど前の教育者デューイの言葉です。教育や知識の系統にこどもたちを合わせて教え込むのではなく、こどもの“おもしろい”“やりたい”といった知的好奇心を信頼して、出会いや経験、自らの気づきを支援する事が大事だと説いたものです。

こうした考えを基に、こどもを中心に、大人がサポートしていく。私たちは、そんな学校教育を展開しています。

▼学校の主人公はこどもたち

学校というコミュニティの中ではこどもも大人も対等です。多数決の全校ミーティングでは、数が多いこどもに押し切られます。大人には「何これ？」という結論になっても、それはそれで良いんです。

やってみて上手いかなければ、変えれば良い。その過程の経験や感動が大事なんです。

でも、体験・感動は数値にはなりません。喜びの表現、「あなたは4、あなたは2」とはなりませんよね。なので、私たちは数値評価をしません。比較をしません。だからテストもありません。

校則もなく、学校での約束事は全校ミーティングで自分達で考え決めていきます。運動会などの行事も自分達でつくります。

こどもは一人ひとりが全く違うので、“けんか”も多いんですが、けんかは“相手とどう折り合っていくか”を学ぶ機会です。自分で考えることで、人間関係を学ぶことで、成長します。

▼こどもたちの居場所・学びの場

私たちの学校は、学習指導要領に沿って運営する私立の認可校ですが、自己決定と体験的な学びを重視しています。そこは、こどもにとって自分自身でいられる安心な居場所であり、「おもしろい」がいっぱいある学びの場、こどもも大人も人として対等な学びの共同体です。

それは、学校でも地域でも、大人から比較・評価されない、という前提があって成り立っていると思います。

私たちの学校がオールマイティーで、現状の解決策だとは考えていませんが、これまでとは異なる教育の考え方をベースとした学校です。「そういう考え方もあるね。」と感じていただいて、日本の学校教育における一つの試金石として、学校が変わるきっかけになればと、考えています。

まおい学びのさと小学校の概要

- ・開校 令和5年4月長沼町の廃校を利用して
- ・児童数 120名（学年定員20名、現75名）
- ・授業料活動施設費 4.2万円/月
- ・令和8年4月には、中学校を開校予定

第1分科会

テーマ「子どもが中心となる地域社会を目指して」
 話題提供「子どもの声をまちづくりに生かす
 —あびら教育プラン—」



笹山氏

発表者 安平町教育委員会学校教育グループ主査 笹山 陽平 氏

コーディネーター 空知教育局社会教育指導班社会教育主事 斉藤 萌 氏

- 安平町では4つの事業を通じて、様々な「学び」から「挑戦」に繋げる独自の教育手法「あびら教育プラン」に取り組んでいる。

- ① 遊 育（遊び）＝「機会・場所・遊びそのもの」を提供し、遊びを通じて育つプログラムを組む
- ② あびらぼ（学び）＝町を舞台に、好奇心に火をつけるようなプログラムを提供
- ③ ワクワク研究所（挑戦）＝自分自身がワクワクするプロジェクトを実践する場を提供
- ④ ABIRA Talks（挑戦）＝「やってみたい」を叶えるオフライン版クラウドファンディングの場を提供

- 子どもの声をまちづくりに生かすため、「子ども意見」が反映された事案

課題＝子ども園脇の交通量が多く、通園児童・生徒の安全性を確保

対応＝アンケートを通じて、子ども意見を聴取 → 道路じゃなくなればいい！

結果＝「子ども意見」が町議会で採用され、町道（町の道路）が廃止

- 少子高齢化の時代だが、テクノロジーの進歩と長寿社会に対応するための変革には、子ども・若者の力が絶対に必要。どんどん子どもの声を聞き、まちづくりに生かしたい。

第2分科会

テーマ「困難を有する子ども・若者が求める支援」

話題提供「地域で支えるひきこもり・不登校 —心に留まり、寄り添う—」



田中氏

発表者 NPO法人レター・ポストフレンド相談ネットワーク理事長 田中 敦 氏

コーディネーター 石狩教育局社会教育指導班社会教育主事 只野 浩太 氏

- 多様化するひきこもりは、全国推定146万人（15～64歳→50人に1人がひきこもり）。

ひきこもるきっかけは、退職や人間関係が多く、中高年のひきこもりが多い。

理由としては、世間に知られたくない、助けてと言えない、就労経験（挫折）がハードル。

- 実施している、大きな3つの活動。

●在宅活動（手紙・絵手紙によるピア・アウトリーチ活動）

●居場所活動（当事者会「SANGOの会」や居場所「よりどころ」当事者会・家族会の開催）

●会報「ひきこもり」通信作成（在宅でも無理なく社会参加し地域の理解啓発を図る）

- 地域でひきこもり・不登校、そして家族を支えるために必要なこと。

●本人や家族の自助努力では解決が難しいため、「ひきこもりは誰にでも起こりえるもの」と地域社会に粘り強く啓発していくことが大事。

●家族には、①つながる（信頼できそうな人）、②届ける（有益な情報を得る）、③見直す（関わり方を検討）の段階を経ながら、支援していくことが必要。

第3分科会

テーマ「多様な価値観・考え方を尊重する」

話題提供「多様な在り方を認め合える地域社会 —知る・つながる・広がる—」



柳谷氏

発表者 さっぽろレインボープライド実行委員会実行委員長 柳谷 由美 氏

コーディネーター 北海道教育庁社会教育課社会教育主事 川崎 亜蘭 氏

- 全ての人が、「みえやすい違い」と「みえづらい違い」を持っている。

「みえやすい違い」＝見た目の性別、身体的な障がい、服装、年齢、体格、利き手

「みえづらい違い」＝国籍・出身地、価値観、家族構成、育った環境、性自認、性的指向

- 性のあり方を作っている4つの要素

①身体的性（出生時に与えられた性）

②性自認（心の性）

③性的指向（好きになる性）

④性表現（服装・仕草などの性）

- LGBTQとは、性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）の総称の1つ。※多数派（マジョリティ）・少数派（マイノリティ）
 LGBTQの割合は、9.7%（11人に1人）。割合は、AB型、左利き、国内で多い苗字の人と同じような割合。

- 道内の学校でも取組が少しずつ進んでいる。

・ジェンダーレス制服（性差を感じさせないデザイン）の導入

・小・中学校では、「性別」や「人権」を考える授業でLGBTQについて学習

- 全ての人が「みえやすい違い」、「みえづらい違い」を持っている。根拠のない思い込みや偏見が、時に誰かを排除することに繋がる。多様な在り方を認め合える社会制度の構築が必要。

令和6年度 青少年育成地域懇話会

専門家の講話を基に、地域の青少年育成関係者と住民が意見交流を通して、こどもを取り巻く課題について理解を深めました。今年度は標茶町と知内町に協力をいただき開催しました。

標茶町

「不登校支援を考える」～子どもの目線、保護者の目線、関係機関の目線から～

日時 令和6年10月24日（木） 14:30～16:30

場所 標茶町開発センター

共催 標茶町青少年健全育成推進連絡協議会 標茶町生徒指導連絡協議会

講話 講話 講話 「保護者の目線、学校の目線、関係機関の目線から」

～事例から見るこども家庭支援センターと不登校支援～

講師 釧路こども家庭支援センター センター長 笠井 雄二 氏



講話概要

- ・不登校児童生徒は、人と関わるのが不安、集団での立ち位置がわからない、登校したいけどできない理由がわからないのでそっとしてほしいと思っている。
- ・保護者は、学校へ行きたくない気持ちを受け止め、話をよく聴いてあげる。母親は子育ての不安を抱え孤立化が見られる。
- ・学校は、保護者とつながる努力をすること、学校全体で対応すること、こどもがSOSを出せるように普段から関係作りに努めることが重要である。
- ・関係機関は、中学校卒業後の不登校支援、関係機関との連携に努め、福祉的アプローチも必要である。

コーディネーター ネイパル厚岸グループ 社会教育主事 成田 悠希 氏

意見交流

- ・担任一人で抱え込まないで、学校全体で情報を共有し対応していく。
- ・中学生になって不登校、兄弟どちらかが不登校になると両方とも不登校になったことから、小中連携の取組が大切である。
- ・不登校の生徒が高校に進学したが、その後どうしているのかわからなくなった。高校進学や将来について保護者と十分話し合いをする。
- ・教育委員会や関係機関など関わる人を広げていく。そのことが保護者の信頼を得ることにつながる。

知内町

「子どもの豊かな心を育てるために」～子どもの伸ばし方～

日時 令和7年2月17日（月） 18:00～20:00

場所 知内町中央公民館

共催 知内町青少年育成町民会議

講話 講話 講話 「ポジティブ行動支援で広がる子どもの可能性」～効果的なほめ方の実践～

講師 北海道教育大学教職大学院 教授 杉本 任士 氏



講話概要

- ・「ポジティブ行動支援」とは、大人の皆さんの前向きな支援・指導で、こどもたちのステキ（ポジティブ）な行動が育まれること。
- ・行動が生まれるきっかけとして、大人からの支援・支えにより安心や心理的な安全を感じ、こどもは様々なことにチャレンジ出来る。
- ・またこども達には、①自己有用感、②自己肯定感、③自尊感情を高める支援・きっかけをつくってほしい。自己肯定感が高いと、豊かな心を育むことにつながる。
- ・“ステキ（ポジティブ）な行動”が増えると、相対的に“ザンネンな行動”が減る。
- ・そして、“ステキな行動”を適切にほめることで、こどもは「自分には価値がある」と実感する。なお、親・先生・大人にとって都合のいいほめるは、こどもが大人の顔色をみて行動することにつながるため、気をつけてほしい。
- ・「ほめること」は、こどもの自信や意欲を育む大切なプロセス。「ポジティブ行動支援」により、こどもたちの可能性は無限に広がる。

コーディネーター 渡島教育局教育支援課社会教育指導班社会教育主事 松田 夕紀 氏

意見交流

- ・ネットの普及により、リアル（現実）な友達との交流や地域の大人との交流がなくなっている。
- ・友達とのやりとりが画面越しであるため、その人の表情や感情が見えない中で交流している。その分、リアルに友達とトラブルがあった時に対応できない子が多い。
- ・人間関係に深入りしない子が多くなっている気がする。
- ・大人には、こどもたちが出来た事にはその場でほめる、困り事や間違った事には一緒に原因を探っていき、正しい道に導いてあげることが大切。大人が寄り添うことで、こどもたちの安心につながる。

青少年の育成活動を効果的に推進するために関係団体・機関が一堂に会し、相互の連携協力や活動を巡る課題について、意見交換を行う懇話会を開催しています。

今年度は、10団体・4機関が集まり、はじめに地域でこどもたちの居場所づくりに力を入れている、NPO法人E-LINK（札幌市）代表理事の日向 洋喜様から「地域とのつながりがこどもたちを育むーなまらツナガル、トカイナカー」というテーマで話題提供をいただきました。その後、「つながる」をテーマに各団体からの連携・協力している関係団体・機関との活動内容等を発表し、意見交換や情報共有により、相互の理解を深めました。



【話題提供の要旨】

思い

「こども時代にいろいろな出会いをしてほしい」「人と人とのつながりを広げたい」「都会だけど田舎のような地域をつくりたい」との思いから、2017年ゲストハウスで学童保育を始めた。地域の協力をえるために人脈をたどって、「こどもたちと遊びに行っていていいですか？」「お話だけしてもらえませんか？」「お礼は活動紹介くらいなのですが大丈夫ですか？」など、ただただシンプルにお願いをしてきた。

活動

- ・学童保育～大人と一緒に絵かきやサッカー、ダブルダッチや空手を教わる。
- ・フリースクール～「好き」を見つける・広げる。やりたいこと・興味あることを聞きながら支援している。
- ・寺子屋プロジェクト～地域のお寺で盆踊りお泊まり会をする。日常的にこどもが集まる場所になった。（P1. 参照）
- ・地域食堂～毎週月曜日、お寺に赤ちゃんから高齢者まで誰もが訪れる。
- ・喫茶こどもし（自主学习塾）～高校生以下無料（大人の代金の20%を還元）
勉強だけでなく社会性も学んでいる。
- ・ハロウィン～地域の人とのつながりをさらに広げたい。当初25店舗から現在40の店舗が協力してくれている。

成果

- ・こどもが中心にすることで地域が笑顔になった。
- ・少しずついろんな場面で声をかけてくれる人たちが増えた。
- ・こどもの、大人の、地域のニーズも見えてきた。 など



当協会にお寄せいただいたご意見などについて

当協会では、北海道青少年育成大会、青少年育成運動活性化研究協議会でアンケートを実施しております。皆様からお寄せいただいたご意見等を、次のように今後の大会等の運営に生かしてまいります。貴重なご意見ありがとうございました。

北海道青少年育成大会	寄せられたご意見等	当協会からの回答
	・「少年の主張」のYouTube配信は素晴らしい試み。今後も継続してほしい。 ・配信のPR方法として、全道の学校にチラシを配布し、配信の周知をしてはどうか。	今回は、市町村教育委員会を通じ、全道の中学校にYouTube配信の案内をしました。今後は、目にとまるようなチラシ等を作成し、より多く視聴してもらえるよう努めます。
	・基調講演の時間が短い。（講演の時間配分を多くしてほしい。）	全体の時間配分を見直し、少しでも講演時間を多く取れるよう検討します。
活性化研究協議会	・大会の周知方法について、駅等へのポスター掲示や新聞等への掲載（市の広報誌等）をしてはどうか。	地下鉄駅掲示板への掲示は、次年度より実施することとし、新聞等への掲載も関係先に働きかけます。
	・オンライン参加は新しい取組で、遠方でも参加しやすくなった。 ・直接会場に参加し様々な方々と話し合いができるのは、とても大切なので、実参加も継続し、ハイブリッド開催を続けてほしい。	今回導入したオンライン参加は、皆様から多数のご好評の声をいただきました。引き続き、ハイブリッド開催を継続しつつ、更に参加しやすい研修会となるよう努めます。
	・毎年平日開催ですが、土・日曜日開催とすれば、参加しやすくなるのでは。	他の会議でも同様の意見をお聞きしておりましたので、次年度は土曜日開催〔令和7年11月8日（土）〕を予定しています。



「道民家庭の日」普及啓発のため、小中学生を対象にした絵画コンクールを開催したほか、街頭啓発やイベントなどに参加し、PR活動を行いました。

家族の大切さやあたたかさが伝わる、入賞作品が決定

道内の小中学生を対象に、「家族の団らん」をテーマにした絵画コンクール2024を開催しました。全道から249点（65校）の心温まる作品の応募があり、厳正な審査の結果、小学生、中学生の各部門の最優秀賞（北海道知事賞）やキューピー（株）のご協力による、特別賞（キューピー賞）など、36点の入賞作品が決定しました。



最優秀賞（北海道知事賞）

「家族で湖、夏の思い出。」

苫小牧市立清水小学校6年 尾崎 帆波 さん

毎年行っている支笏湖キャンプ。支笏湖の綺麗な青色と、湖遊びでの楽しさが表せるように描きました。家族との時間が大切だと気づけたので、来年のキャンプも楽しみです。



最優秀賞（北海道知事賞）

「弟と堤防で見た花火」

北海道教育大学附属旭川中学校2年 富山 美七海 さん

最優秀賞、とても嬉しかったです！この作品は、花火よりも2人の表情を見せることを意識して描きました。水彩画はあまり描かないので、着色が難しかったです。

入賞作品展を道内各地で開催

札幌市をはじめ全道7箇所で行賞作品展を開催しました。

11月4日に札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）で開催した作品展では、入賞者やそのご家族を含めて約220名が来場し、大勢の方に作品を楽しんでもらいました。

また、11月から2月にかけて6箇所の振興局等でも入賞作品展が行われました。



札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）

啓発活動 ・ イベント 報告

JR札幌駅で街頭啓発

11月の「秋のこどもまんなか月間」を当協会が毎月実施している街頭啓発活動と合わせて、保健・福祉の「うっさん」、道警の「ほくとくん」、当協会の「ほーほーくん」により実施し、家族のふれあいの大切さを呼びかけました。



北海道矯正展で啓発活動

10月に北海道矯正展が札幌刑務所で開催され、「道民家庭の日」の啓発活動を「ほーほーくん」と一緒に行いました。

たくさんの親子連れや大人も交えて、じゃんけん対決をし、楽しんでもらいながら家庭の大切さをPRすることができました。



青少年の 社会参加

北海道青年活動元気づくりプロジェクト事業

青年が地域活動の実践を通じ、自らの能力向上や仲間づくり、地域の担い手として成長することを促進するため、助成金を交付しています。

全道の青年団体等を対象に事業を公募・審査を行い、令和6年度に交付となった4事業をご紹介します。

大空スポーツ・レクリエーション部

スポーツやレクリエーションを通じ、町を盛り上げ、地域の交流やつながりを図るため結成。

大空町初のモルック大会を開催！

誰でも楽しめるモルック大会を町内で初めて開催し、世代間交流やつながりが深まりました。



さっぽろレインボープライド実行委員会

LGBTQを含む性的マイノリティに対する差別や偏見の解消を目的に啓発活動や講演活動を実施中。

さっぽろレインボープライド開催、出前講座実施

LGBTQが身近な存在であることを発信したほか、教育機関等へ講座に出向き働きかけをしました。



浜益わかもん会

石狩市浜益の未来を創る若者を育てるべく、“わかもん”のアイデアと熱意で地域活動を展開中。

釣り堀Remodellingプロジェクト

廃業した釣り堀のリモデリング（再構築）を通じ、環境保全や地域住民とのつながり、若者の成長する機会となりました。



大門学生祭復活プロジェクト

2019年まで開催していた函館市内の大学生による「大門学生祭」を復活すべく活動中。

「フレ大門学生祭」を5年ぶりに開催！

商店街や地域住民の協力により、ステージ発表や模擬店の出店など多くの人で盛り上がりました。



令和7年度

北海道青年活動
元気づくりプロジェクト

事業募集の
お知らせ

募集期間 令和7年4月～6月上旬

交付額・委託額／団体数

地域活動支援事業＝交付上限15万円（2団体）

地域活動基盤づくり事業＝委託上限25万円（1団体）

申請方法等

当協会ホームページに「北海道青年活動元気づくりプロジェクト事業募集」を掲載しますので、そちらをご覧ください。



こども・若者が個人として尊重され、自分らしく、 幸せな状態で生活を送ることができる社会の実現 北海道が新たに「北海道こども計画」を策定します



令和5年4月に施行されたこども基本法を踏まえ、北海道では「北海道こども基本条例」と「北海道こども計画」を策定し、4月から地域全体での取り組みを進めることとしています。

日本国憲法、こども基本法及び子どもの権利条約の精神を踏まえ、こども大綱を勘案して策定する「北海道こども計画」の六つの基本的な方針の概要を北海道青少年育成協会が紹介します。

① こども・若者の人格・個性の尊重と 権利の保障

こどもや若者を多様な人格を持つ自立した個人として尊重し、その権利を保障し、最善の利益を図る。

「こどもとともに」という姿勢で、こどもや若者の自己選択・自己決定・自己実現を社会全体で後押しする。

家庭や学校、こどもが参加する地域活動ではこども達自身が主人公です。

こどもが話し合ってルールを決めることを先生が後押しする「まおい学びのさと小学校」の取組（本紙P2）は大変参考になります。

③ こどもや若者、子育て当事者のライフステージ に応じて切れ目なく対応し、十分に支援する

必要な支援が途切れることなく、自分らしく社会生活を送ることができるまで社会全体で支える。

当協会では「青少年は地域から育む」を掲げていますが、本計画でも家庭や学校、住民などが一体となって、こどもの成長を支援することが明らかにされています。

当協会は、引き続き、青少年育成運動推進指導員の皆様などの活動を支援してまいります。

犯罪に巻き込まれない安全で安心な地域づくりにも、関係機関とともに取り組みます。

⑤ 若い世代の生活基盤を安定させ、結婚や 子育てに関する障害を取り除く

多様な価値観・考え方を尊重し、結婚し、こどもを産み育てたいと望む若い世代を社会全体で支えていく。

② こどもや若者、子育て当事者の視点を 尊重し、対話しながらともに進める

こどもや若者が、意見を表明したり、社会に参画することが社会への影響力の発揮につながる。大人は、年齢や発達に応じてこどもや若者の意見を尊重する。

また、意見を表明しやすい環境づくりに努める。

様々な形で地域の活動に参加するこどもの年齢などに応じて、意見を聞き、対話することを通して、活動を進めることが求められています。

④ 良好な成育環境を確保し、貧困と格差の 解消を図り、全てのこども・若者が幸せ な状態で成長できるようにする

全てのこども・若者が、様々な学びや体験活動、遊びを通じて自己肯定感や有用感を高めるよう取り組む。

困難な状況にあるこども・若者や家庭を誰一人取り残さず、ニーズに応じたきめ細かい支援を行う。

家庭の経済状況等にかかわらず、全てのこどもの多様な活動や学びなどの機会を確保することが求められています。

こどもの活動を応援する当協会の青少年基金事業も、交付対象となる経費を見直すなどして、体験格差が生じることのないよう、活動の支援を充実させる考えです。

⑥ 施策の総合性を確保し、関係部局、市町村、 民間団体等と連携する

道内市町村でも「こどもの条例」制定の動きが進んでいます。石狩市では、こどもの権利侵害に対応する救済委員会の設置などの独自施策も掲げ、「全てのこどもたちが、笑顔で暮らせるやさしいマチを目指したい」としています。

松井 弘 さん（網走市）が、「全国青少年育成県民会議連合会表彰」を受賞



青少年育成運動推進指導員の松井弘さんが、全国青少年育成県民会議連合会が主催する「全国青少年育成県民会議連合会表彰」を受賞しました。

この表彰は、青少年の健全育成に顕著な活動を行った指導者を表彰するもので、松井さんは、子ども会活動の振興や後継者の育成に努められてきたほか、「網走市豊かな心を育てる活動推進会議」の役員として長年にわたる幅広い活動が評価されての受賞となりました。

松井さんには、昨年12月26日に網走市教育委員会の岩永雅浩教育長から表彰状が伝達されました。（写真：左）

令和7年度 事業計画・予算の概要

1 青少年育成住民運動の促進

■青少年育成運動推進指導員の配置

こども・若者への支援活動や関係団体等の連携を促進するため、各市町村や（総合）振興局に配置。

■青少年育成地域合同会議

令和7年5月中旬～6月中旬に道内14箇所で開催。（北海道と共催）



■こども・若者の成長を応援する市民組織との連携強化

地域の関係団体とともに意見交換会を開催するなどして、こども・若者を取り巻く課題等について理解を深める。（道内2箇所で開催）

2 青少年を社会全体で育成・支援する環境づくりの推進

「こどもまんなか社会」の実現に向けて、道民の理解を深め、こどもたちの健やかな成長を社会全体で応援する環境づくりを進める。

■北海道青少年育成大会

日程 令和7年8月29日（金）
場所 札幌市（かでの2・7）
内容 「少年の主張」全道大会
講演、功労者表彰
（北海道等と共催）



■青少年育成運動活性化研究協議会

日程 令和7年11月8日（土）
場所 札幌市（かでの2・7）
内容 講演、分科会協議



■明るい家庭づくり道民運動

- ・「道民家庭の日」の普及・啓発
- ・こども絵画コンクール



■「北海道のこどもたちに読んでほしい200冊」の選定・推奨

関係団体の協力を得て推薦図書（200冊）を選定し、啓発ポスター等を道内の学校や図書館などに配布し、こどもの読書活動を推進。



■青少年育成関係団体懇談会

道内の青少年育成関係団体が、相互の活動状況を理解し、効果的な活動の連携協力について意見交換や協議を行う。

3 青少年の主体的な社会参加・体験活動の促進

こども・若者が自立した個人として成長できるよう、地域における様々な体験活動を支援し、社会参加を促進。

■北海道青少年基金事業

こども・若者の自主的活動を応援するため、次の事業を行うほか、募金活動により基金の拡充を図る。

こども・若者応援交付金

こどもが参加する自主的活動を支援するための交付金を交付。

交付額：5万円コース } 予算額 350万円
交付額：7万5千円コース } 40～50団体を予定

こども・若者応援顕彰

優れた活動を支援するため、こども・若者自身やその支援者を顕彰。

こども・若者の活動 } 団体の部・個人の部
こども・若者への支援活動 } 計4件を予定

* 顕彰団体（個人）には、活動支援金を交付
団体：10万円 個人：3万円 3年間（条件あり）

■北海道青年活動元気づくりプロジェクト

若者が地域の中核的人材や担い手として自立・成長することを応援するため、地域の課題等を踏まえた若者による自主的活動を支援。



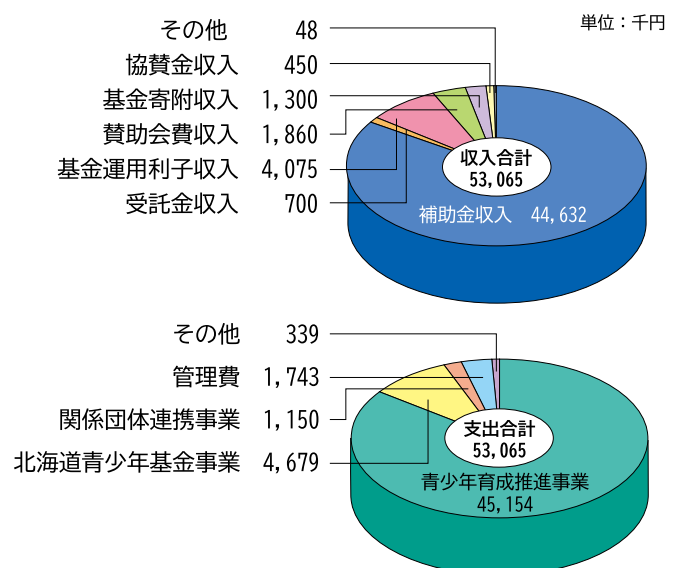
地域活動支援事業

若者の主体的な活動に助成。
（交付：2件）

地域活動基盤づくり事業

セミナー等を開催して若者の地域を越えた交流と連携を進める。（委託：1件）

令和7年度 予算の概要



詳細につきましては、当協会のホームページでご確認いただけます。

全道各地の青少年育成関連研修会に講師を派遣 ―講師派遣事業―

青少年育成に関する情報を全道各地にお届けすることを目的に、各（総合）振興局、市町村、地域・育成団体などが主催する研修会に、当協会の専門指導員を派遣する「講師派遣事業」を実施しています。

- ◆ **申込み** 当協会ホームページからお申し込みください。
- ◆ **諸経費** 交通費・謝礼は不要です。
- ◆ **内容** ご相談の上、決定します。ご希望の内容をお聞かせください。

例) SNSに起因するトラブルについて
複雑化する青少年を取り巻く環境について
地域の大人や育成委員が果たす役割について

◆ 令和6年度講師派遣実績

- 札幌市南円山地区の安心・安全なまちづくりを考える会（写真上）
「SNSに夢中になる子どもたちの現状と課題について」
- 芽室町青少年健全育成協議会第2回生徒指導交流会
「SNSに夢中になる子どもたちの現状と課題について」
- 後志管内青少年育成運動推進指導員協議会研修会
「複雑化する青少年を取り巻く現状と育成指導員の役割」
- 美幌町青少年育成指導員等研修会（写真下）
「地域の子どもは、地域で守り育てる」
～今、私たちに求められていること～



令和7年度 北海道青少年基金【交付金】

【募集期間】

令和7年4月～6月

【交付額・交付団体数】

総額350万円（45～50団体を予定）

事業費の1/2を交付（5万円コース・7万5千円コース）

【申請方法等】

当協会ホームページから申請してください。

交付団体の事業を、当協会のホームページに掲載します。
活動や申請の際にお役立てください。



賛助会員のご案内

道内の青少年育成活動を幅広く推進するため、当協会の活動にご賛同していただける賛助会員を募集しています。

現在、普通賛助会員48名・51団体、特別賛助会員142団体、合計241団体・個人の方にご入会いただいています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

会員の種類及び会費

(1) 普通賛助会員 個人 一口 1,000円
青少年団体 一口 5,000円

(2) 特別賛助会員
法人及び地方公共団体 一口 10,000円

★賛助会員の皆様には、「道民家庭の日」カレンダー等をお送りいたします。

LINEのご案内

当協会の最新情報をお届けします。
ぜひ、友だち追加をお願いします！



友達追加方法

追加方法①

LINEアプリの「ホーム」→
「友だち追加」
から、右のQR
コードを読み
取る



追加方法②

LINEアプリの「ホーム」→
「友だち追加」→「検索」から
7, IDで

@972dprpx

と入力し検索

道民家庭の日
家族ふれあい

優待券

優待日
毎月第3日曜日
(※営業日などのところもあります。)

*こちらの優待券をコピーして
ご利用可能です。

公益財団法人 北海道青少年育成協会

優待券の使い方 (コピー可)

- 家族ふれあい協賛店や施設にこの優待券をお持ちになると料金の割引や各種サービスが受けられます。
- 道民で、18歳未満のお子様を含む家族の方に限ります。(対象人数は各店・各施設で異なります。)
- ご来店・ご来場の際に提出してください。



ほーほーくんの紹介

「道民家庭の日」のイメージキャラクターのほーほーくんは緑色のかわいい子どものフクロウです。
道民の皆様は家庭の絆を深めてもらえるよう、「道民家庭の日」のPR活動などで大活躍しています。

令和7年3月発行

公益財団法人 北海道青少年育成協会

札幌市中央区北5条西6丁目1番地23 第二道通ビル

TEL 011-231-6451 FAX 011-231-6457 Eメール youth@ikuseikyokyo.jp



ホームページのご案内

<http://www.ikuseikyokyo.jp/>



機関誌「育む」のご案内

バックナンバー